

杵築地区

(大分県杵築市)

計 画 期 間 平成 17 年度～21 年度
 面 積 64ha
 交付対象事業費 429 百万
 市人口 32,567 人 (地区内人口 2,061 人)

ポイント

杵築城下町の歴史的景観を保全、再生。

地区概要

昔の建築物を活用し、杵築市の観光の拠点となる観光交流センターの設置や杵築市の象徴でもある坂を補修し歴史的景観を整備することにより観光客増加し、中心市街地の活性化を図る。

目 標

歴史的景観を保全、再生し、住民や観光客の賑わいにより中心市街地の活性化。

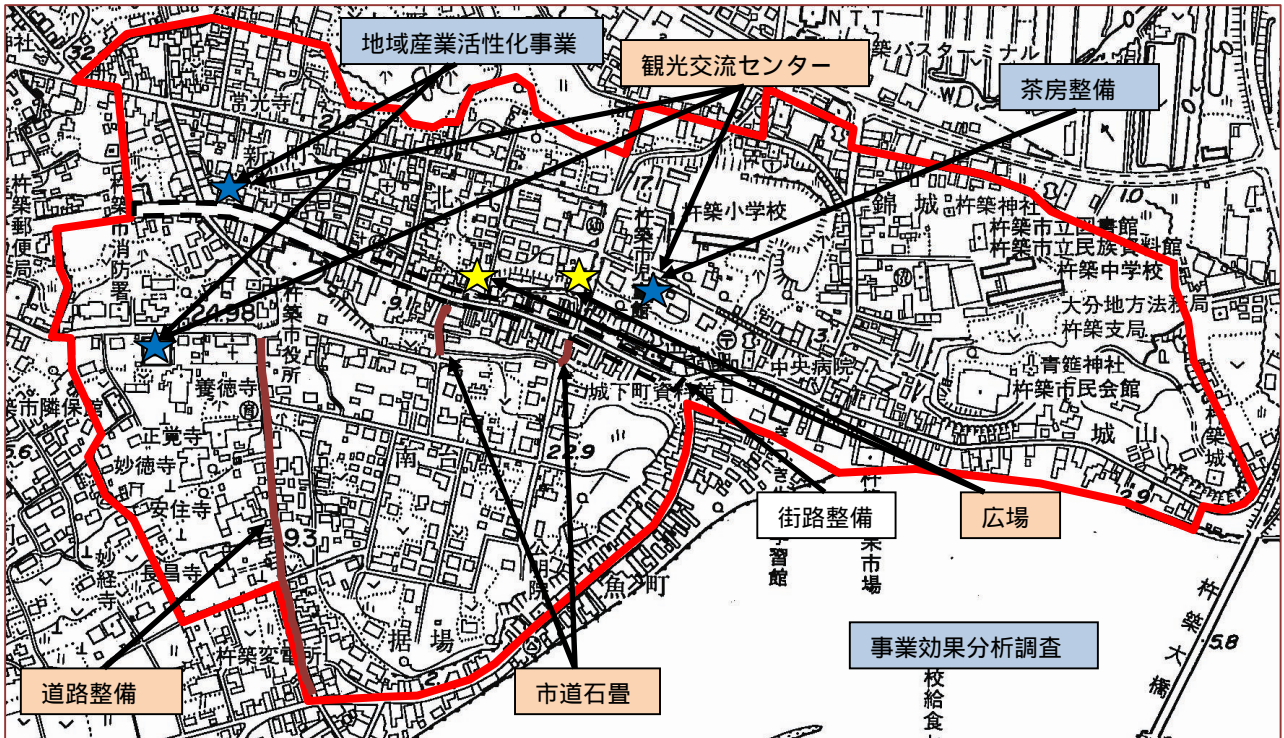
指 標

観光交流センターの設置、坂を景観的に整備等することにより、歴史的景観を保全、再生し、住民や観光客で賑わうことにより、観光客数、店舗数、観光ボランティア数の増を目標とした。

項 目	現況値	(年)	確定値	(年)
観光客数	138,000	16	145,000	21
店舗数	97	16	89	21
観光ボランティア数	21	16	19	21

事業内容

基幹事業 (336 百万円) ・観光交流センター(2ヶ所 702 m²)石畳整備(2 路線、延長 90m)・道路整備(幅員 2.6～6.0m、延長 430m)・広場(2ヶ所、406 m²)
 提案事業 (93 百万円) ・地域産業活性化事業(201 m²)・茶房整備(73 m²)・事業効果分析調査(1ヶ所)



地区の現況と課題

本地区は杵築市の中心部に位置し、南北の台地には武家屋敷群、その間の谷筋には商家を中心とした江戸時代の歴史的街並みを残している。かつては、杵築地域の商業の中心として栄えていたが、車社会への移行によりバイパス沿道へ商店の進出が増え商業活力が低下してきている。

こうした状況の中、都市計画道路宗近魚町線の改良計画を契機にまちづくりへの機運が高まり、「杵築地区居住環境街路事業調査」、「歴史的地区環境整備街路事業調査」等を実施し、平成5年には歴史的道路として13路線の都市計画決定と事業採択がなされた。また、平成8年には同地区内の約5.3haにおいて、建築物の高さや意匠を制限した地区計画の導入・まちづくりに関する条例の制定など、官民の協力により、歴史的景観と調和したまちづくりが進められており、平成10年からは街並み・まちづくり総合支援事業、平成12年度から平成16年度まではまちづくり総合支援事業による歴道の整備、観光案内板の設置など、歴史的街並みと共存した地域整備を行っている。

基幹事業の特徴

観光交流センター

- ・昔酒蔵として使用されていた建物を利用し、杵築市の観光の拠点となる観光交流センター(観光情報発信等)として整備する。
- ・杵築の観光ルート沿いにある能見邸を改修し、観光客に昔の家の風情を感じてもらい、また地元の人との交流場所としても開放する。

石畳整備

- ・杵築市の象徴でもある坂(飴屋の坂、志保屋の坂)を補修し、歴史的景観を整備する。

道路整備

- ・杵築地区中心部のアクセス道路として舗装等を整備する。

広場

- ・街路事業用地の残地を利用し、地元の人はもちろん観光客の憩いの場として休憩施設を整備する。
- ・観光名所である酢屋の坂の横に広場を整備し、観光客の憩いの場として休憩施設を整備する。

提案事業の特徴

地域産業活性化事業

- ・商店街のなかの古いたたずまいを残し昔酒蔵として使用されていた倉庫を整備して地域特産品販売・飲食スペースを設ける。

茶房整備

- ・武家屋敷を改修し、お茶の生産者が丹精こめて作った茶をセレクトし、茶器・スイーツ等を提供する喫茶スペースとして利用する。

事業効果分析調査

- ・まちづくり交付金の事業による効果の専門的な分析を行う。

計画策定プロセス

中心市街地活性化基本計画を基に策定。

杵築市の街並み



飴屋の坂整備前後

・整備前



・整備後



観光交流センター整備後

